

科目ナンバー	ARS-3-016-k			科目名	地域づくり論		
教員名	鈴木 鉄忠			開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
概要	「少子高齢化」「過疎化」「限界集落化」「地方消滅」が叫ばれる現在、これまでの外部資本投下による「外から」でもなければ、公共事業優先の「上から」の地域開発でもなく、また自動車優先や巨大施設誘致の「モノから」ののではなく、いかにして「下から」「内から」「人から」の地域づくりを進めていくかが大きな課題となっています。この授業では、日本や海外の都市・地域の事例を通して、地域内の資源や地域内外の人びとの協力関係にもとづく、持続可能な地域づくりの諸条件を検討していきます。 次の3つのテーマをとりあげます。 (1)「地域(社会)」「地域づくり」の定義と論点 (2)「下から」「内から」「人から」の「地域づくり」を目指した理論と方法(パブリックライフ学、地元学、関係人口論、スローシティ)とその事例 (3)海外の事例や前橋および群馬の地域づくりとの比較 これらをワークショップ形式で検討します。						
到達目標	この授業では、次の3つを到達目標とします。 ①「地域づくり」をめぐる基本的な用語と論点を把握し、なぜいま「地域づくり」が求められているのかを歴史的な視点で理解できるようになること ②「地域づくり」をめぐる代表的な理論と方法を学習すること ③世界的な視野で前橋や群馬のローカルな地域づくりの意義と課題を具体的に考える方法を習得すること。						
「共愛12の力」との対応							
識見			自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力
共生のための知識			自己を理解する力		伝え合う力	○	分析し、思考する力 ○
共生のための態度			自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力 ○
グローバル・マインド	○		主体性 ○		関係を構築する力	○	実践的スキル ○
教授法及び課題のフィードバック方法	この授業では、以下のような教授法を採用します。①講義形式の授業時間には、担当教員の方からテーマの背景説明や論題提供を行います、②アクティブラーニング形式の授業では、映像資料の視聴や関連文献の購読をふまえたディスカッションと質疑応答を行います。最終的な履修者人数に応じて、それにふさわしい教授法に適宜変更します。 授業内容の理解を確かめる複数回のリアクションペーパーや課題に取り組み、授業中または次回授業でフィードバックします。						
アクティブラーニング	○		サービスラーニング				課題解決型学修 ○
受講条件 前提科目	国際コース、心理・人間文化コース、情報・経営コース、そして児童教育コースは専門科目です。その他のコースは自由科目です。地域に関連する科目やプロジェクト、フィールドワークの科目をすでに受講済み、あるいは現在受講中の受講生を想定しています。						
アセスメントポリシー及び評価方法	評価方法は以下の得点配分で行い、最終評価は総合的に判断します。 参加点：授業中の質疑応答や議論における発言、グループワーク、コメントシートの内容、授業課題への積極的な取り組みを含めた参加の「質」25% プレゼンテーション：地域づくりの理論と方法と事例をふまえた、前橋または群馬地域への応用に関する発表 25% 期末課題：期末レポート 50% 評価の基準は、レポートの内容と形式に関する「評価ルーブリック」(事前に配布)を基に行う						
教材	参考図書のなかから受講生の関心や課題におうじて入手してもらいます。最初の授業で指示します。						
	「地域」「地域社会」という概念については、下記を参照。 地域社会学会(編)、『新版 キーワード 地域社会学』ハーベスト社、2011年 伊藤守ほか(編)、『コミュニティ事典』春風社、2017年  人口減少をめぐる時代診断とその論争については、下記を参照。 増田寛也(編著)、『地方消滅—東京一極集中が招く人口急減』中公新書、2014年 NHKスペシャル取材班、『縮小ニッポンの衝撃』講談社現代新書、2017年 諸富徹、『人口減少時代の都市—成熟型のまちづくりへ』中公新書、2018年 山下祐介、『地方消滅の罠—「増田レポート」と人口減少社会の正体』ちくま新書、2014年 小田切徳美、『農山村は消滅しない』岩波新書、2014年 田村秀、『地方都市の持続可能性』ちくま書房、2018年						

参考図書	<p>「下から」「内から」の地域づくりの理論と事例については、下記を参照。</p> <p>J.ゲール／B.スヴァア、『パブリックライフ学入門』（鈴木俊治／高松誠治／武田重昭／中島直人訳）、鹿島出版会、2016年</p> <p>J.ゲール、『人間の街』（北原理雄訳）、鹿島出版会、2014年</p> <p>J.ゲール、『建物のあいだのアクティビティ』（北原理雄訳）、鹿島出版会、2011年</p> <p>吉本哲郎、『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書、2008年</p> <p>結城登美雄、『地元学からの出発』農文協、2009年</p> <p>藤山浩、『シリーズ田園回帰① 田園回帰1%戦略』農文協、2015年</p> <p>大森彌／小田切徳美／藤山浩、『シリーズ田園回帰⑧ 世界の田園回帰』農文協、2017年</p> <p>小田切徳美ほか、『田園回帰がひらく未来―農山村再生の最前線』岩波ブックレット、2016年</p> <p>田中輝美、『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』木楽舎、2017年</p> <p>飯盛義徳、『地域づくりのプラットフォーム―つながりをつくり、創発をうむ仕組みづくり』学芸出版社、2015年</p> <p>竹端寛／尾野寛明／西村洋己（編著）、岡山県社会福祉協議会（監修）、『「無理しない」地域づくりの学校―「私」からはじまるコミュニティワーク』、ミネルヴァ書房、2017年</p> <p>鶴見和子、『内発的発展論によるパラダイム転換』、藤原書店、1999年。</p> <p>現在の地域づくりの様々な論点について、下記を参照。</p> <p>城月雅大（編著）、『まちづくり心理学―「愛着」から考える地域再生のエッセンス』名古屋外国語大学出版会、2018年</p> <p>石原武政／西村幸夫（編）、『まちづくりを学ぶ―地域再生の見取り図』有斐閣ブックス、2010年。</p> <p>飯田泰之ほか、『地域再生の失敗学』光文社新書、2016年</p> <p>前橋地域の地域づくりについては、下記を参照。</p> <p>呉宣児／奥田雄一郎／大森昭生（編著）、『前橋市の地域づくり事典―「家に住む」から「地域に住む」へ』上毛新聞社、2017年</p>
------	--

内容・スケジュール			
1週目			
授業学修内容	<b>【イントロダクション】</b> ・なぜいま「地域づくり」なのか、本科目の位置づけと授業概要の説明を行う		
授業外学修内容	・「地域」という用語が持つ一般的・日常的なイメージをいくつかあげて、なぜそのようなイメージが浮かぶのかを考える	時間数	2
2週目			
授業学修内容	<b>【「地域」を定義する①】</b> ・「地域づくり」の「地域」は、何によって形作られているのか？「地域」に含まれる一般的イメージのなかから、本質的な特徴をワークショップ形式で抽象し、概念(concept)として地域を理解する。		
授業外学修内容	・「地域」「地域社会」に関する学術的な議論を事典で調べ学習する	時間数	2
3週目			
授業学修内容	<b>【「地域」を定義する②】</b> ・「地域づくり」の「地域」は、何によって形作られているのか？「地域」に含まれる一般的イメージのなかから抽象した概念(concept)として地域をワークショップ形式で議論し、理解を深める。		
授業外学修内容	・「地域」「地域社会」に関する記事を地元紙から見つけ出し、要約と考察をまとめる	時間数	2
4週目			
授業学修内容	<b>【地域の多様性をめぐるワークショップ】</b> ・地域に関するキーワードと現在進行中の取り組みをワークショップ形式で検討する		
授業外学修内容	・地元紙から地域イベントの記事を選び出し、それがどのようなキーワードで説明できるかを検討し、まとめる	時間数	2
5週目			
授業学修内容	<b>【「人から」の街づくりはいかにして可能か①パブリックライフ学の理論】</b> ・「人間のための都市」に向けたパブリックライフ学の理論を学習する		
授業外学修内容	・パブリックライフ学に関する配布資料もしくは指定テキストの関連箇所を事前に読んでおく	時間数	2
6週目			

授業学修内容	【「人から」の街づくりはいかにして可能か②パブリックライフ学の事例】 ・世界の事例に関する映像資料を通して、パブリックライフ学の理論の理解を深める		
授業外学修内容	・パブリックスペース、パブリックライフ、サードプレイスに関する配布資料 もしくは指定テキストの関連箇所を事前に読んでおく	時間数	2
7週目			
授業学修内容	【「人から」の街づくりはいかにして可能か③パブリックライフ学の応用】 ・パブリックライフ学の理論と世界の事例が、前橋および群馬地域に应用可能かを、グループでのワークショップ形式で議論する		
授業外学修内容	・受講生が活動または生活している地域のデータを収集し、パブリックライフ学の観点から考察する	時間数	2
8週目			
授業学修内容	【「人から」の地域づくりはいかにして可能か①イタリアのスローシティ】 ・イタリア発の「スローシティ」の理念と取り組みを学び、パブリックライフ学と比較検討する		
授業外学修内容	イタリアのスローシティに関する配布資料を読んでくる	時間数	2
9週目			
授業学修内容	【「人から」の地域づくりはいかにして可能か②日本のスローシティ】 ・日本の「スローシティ」(前橋赤城と気仙沼)の理念と取り組みを学び、イタリアのスローシティと比較検討する		
授業外学修内容	前橋赤城もしくは気仙沼のスローシティについて、インターネットなどで下調べをおこなう	時間数	2
10週目			
授業学修内容	【「下から」「内から」の地域づくりはいかにして可能か①地元学の方法】 ・地元学とはどのような試みを理解する		
授業外学修内容	・地元学に関する配布資料もしくは指定テキストの関連箇所を事前に読んでおく	時間数	2
11週目			
授業学修内容	【「下から」「内から」の地域づくりはいかにして可能か②地元学の応用】 ・受講生が活動もしくは生活している地域に地元学の方法を応用してみる。		
授業外学修内容	・新聞記事、広報、現地訪問から得たデータを地元学の観点から考察したものをまとめる	時間数	2
12週目			
授業学修内容	【「下から」「内から」の地域づくりはいかにして可能か③関係人口論】 ・関係人口というキーワードを学習する。前橋地域の取り組みを関係人口の観点からワークショップ形式で考える		
授業外学修内容	・新聞記事、広報、現地訪問から得たデータを関係人口論の観点から考察したものをまとめる	時間数	2
13週目			
授業学修内容	【地域づくりのプレゼンテーション①】 ・これまでに学習した知見と事例を踏まえ、前橋や群馬の地域づくり事例に関する発表と議論を行う		
授業外学修内容	・新聞記事、広報、現地調査から地域づくりに関するデータを収集し、これまでの授業内容と関連付けた発表の準備を行う	時間数	4
14週目			
授業学修内容	【地域づくりのプレゼンテーション②】 ・これまでに学習した知見と事例を踏まえ、前橋や群馬の地域づくり事例に関する発表と議論を行う		
授業外学修内容	・新聞記事、広報、現地調査から地域づくりに関するデータを収集し、これまでの授業内容と関連付けた発表の準備を行う	時間数	4
15週目			
授業学修内容	【まとめ・総括】 ・これまでの学習内容をふりかえり、知見を整理し、期末課題に取り組む		
授業外学修内容	・コメントペーパーや授業外課題提出物を踏まえたりフレクションをKyoai Career Gateに記入し、学びの蓄積と定着を図る	時間数	2
上記の授業外学修時間の合計		34	
その他に必要な自習時間		56	

Number	ARS-3-016-k	Subject	enous Development in Regional Communitie			
Name	鈴木 鉄忠 (Suzuki Tetsutada)	Year and semester	S	Second semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>Currently, as "depopulation," "low birthrate aging," "marginalized local administration" are cried out, it is a big challenge whether to promote regional development from below and within. In this course, after confirming the structural background of Japan after the war when the interest in "community development" increased, conditions of sustainable community development based on cooperative relations among people in the region and people inside and outside the region will be examined. We will take up the following three themes.</p> <p>(1) Definition and issue of "Region (society)" "Community development"</p> <p>(2) Theories and methods aimed at "community development from below and within" (public life studies, local studies, related population, slow city)</p> <p>(3) We will examine these in a workshop format, especially paying attention to regional development of Maebashi city and Gunma.</p>					